（三十一日夕刊）

休刊　毎月一回第三日曜大祭日
定價　一部二錢郵税　一ヶ月六十錢　十五錢
廣告料　常行六十錢　指定廿錢　增
福島縣平町田町十六番地
發行所　磐城新聞社
電話五六四番
發行兼編輯人　蓮沼龍輔

啓蒙記（其四の二）

江戸小ばし迄牽いて福田將夫を笑ふこと

島田忠夫

□

次ぎに福田なる妄者は殊勝らしくも短歌形態のことを少し許り並べた、而してゴミ溜にでも行き給へ。妄曰く「短歌の格律に餘りに古くもはや現代人と（一字不明）詩のリズムと一致しない。この矛盾を脱するために短歌の定型をすてて、まよ外はない云々」と

短歌の格律の古いことを今頃氣づくから、妄者福田は青二才なのである。古い格律のうちに遊んでゐらかなる「こころもち」を得るから茶道や、生花なども尊いのである。祭禮なども取りあえず古い格律を守るものである。宗教なども同じ事である。しかし、新しきか古きかはその箇人の問題あり。タキシードなどを着こんで、頗る近代的な洋式の宴會に出席し、吾輩に毛だものゝ肉を喰はぬなどいふのは、その人間が古のであつて、決して宴會が古いのではない。これと一般である。短歌の如き古き格律のものをして、詞句を自由に驅使し、新しき感情を盛るのは何等差支べない。

いや、その中に實に苦吟の爲一甲斐もあるのである考へても見給へすべてが新しく且つ形態を脱せよと叫んで、茶道に、コーヒーを用ひて見給へ、ふくさの代りにナフキン、たつめの代りにエム、ゼー、ビーの罐を而して釜の代りにサモワルでも置くか、「結構なお立合ひのやうに」でも云ふえうめねーでも云ふいずか。ふくさばきの時はあの大きなナフキン、クロースでもしどくのですか。それなら茶室で茶あそびでもあるまい、手近かなカフエーにでも行くべきである。短歌も又然り、矛盾、

ぬ、

ひ…ん

短歌形のものを案出するが好い。詩の仲間にでもゆく勝らしくも短歌形態のことを少し許り並べた、而してゴミ溜にでも行き給へ。妄曰く「短歌の格律に餘りに古くもはや現代人と（一字不明）詩のリズムと一致しない。この矛盾を脱するために短歌の定型をすてて、まよ外はない云々」と

短歌の格律の古いことを今頃氣づくから、妄者福田は青二才なのである。古い格律のうちに遊んでゐらかなる「こころもち」を得るから茶道や、生花なども尊いのである。祭禮なども取りあえず古い格律を守るものである。宗教なども同じ事である。しかし、新しきか古きかはその箇人の問題あり。タキシードなどを着こんで、頗る近代的な洋式の宴會に出席し、吾輩に毛だものゝ肉を喰はぬなどいふのは、その人間が古のであつて、決して宴會が古いのではない。これと一般である。短歌の如き古き格律のものをして、詞句を自由に驅使し、新しき感情を盛るのは何等差支べない。

いや、その中に實に苦吟の爲一甲斐もあるのである考へても見給へすべてが新しく且つ形態を脱せよと叫んで、茶道に、コーヒーを用ひて見給へ、ふくさの代りにナフキン、たつめの代りにエム、ゼー、ビーの罐を而して釜の代りにサモワルでも置くか、「結構なお立合ひのやうに」でも云ふえうめねーでも云ふいずか。ふくさばきの時はあの大きなナフキン、クロースでもしどくのですか。それなら茶室で茶あそびでもあるまい、手近かなカフエーにでも行くべきである。短歌も又然り、矛盾、

ぬ、

ひ…ん

乳母を訪ねる

佐藤眞琴

むかし乍らの火箸も懷かしく掌に弄び
吾膝へ親しげにうなたれる猫も手ゞ差のべて吾乳母に抱かれたいと云ふ吾子なる
乳母の頬ふくらむ火吹竹一ばいの息
それから廿九年の太つた梅の幹
時折梢を鳴らして行く風ありぬ
別れ難く煙草また取りあはされる
歸の吾背に乳母の視線が伸びてくる

冬日

湯田一花

泣き寢入る炬燵の子ー蒲團かけてやゝ二日の日の出辨天山のちぎれ雲道ひだに雪殘りあり二日哉

かるべき日▲五黄　出入を正しくし時を計りて動けば過ち少し▲六白　時を過せず活氣を落さず好境に入るべし▲七赤　運氣は外に出て強く内仕事は面白からず▲八白　心を勵かされ易く相談事　後日に讓るべし▲九紫　思ひを安靜にし世の潮流に迷はぬ樣にべし

白馬の雪
芳醇無比
松本德一吟醸
平電話七五二

講談

幕末奇傑高山彦九郎

（55）　布施長春翁

腐れ儒者　（三）

「待てい！」

盤をかけたのは、師の西岡源水でした。

「は」

思はず、弟子たちは、手膝を落して、師の丸に向き直りました。

「この方今の講義を、今一度ばかりたいと仰せられの根本です、我國は長くも天子、位にはしませぬ世の樣は似通うてありまして。異るのはその國柄の

石城政友部會で選擧陣容整ふ

事務長は山崎氏に

きのふの幹部會で

政友會石城部會では昨日午後三時から平町字南町の事務所で幹事會を開き選擧運動につき協議したが木村氏の選擧事務長は候補者の希望により山崎吉平に決定また二班の遊説隊を組織し第一部長鈴木辰三郎氏第二部井上茂作氏をあげ選擧干渉壓迫違反行爲を監視するため監視部を設け元平署長伊藤儀七氏を同部長に副部長青田、渡邊氏をあげ午後五時散會した

神長倉氏は出馬せず

地元有志に意中を吐露

第三回(双葉郡)政友派から同郡苅野村出身の神長倉豊氏が政友會の非公認として立候補する如く傳へられてゐるが同氏は出馬せぬものと見られてゐる即ち同氏が出馬説を傳へられた經過は過般双葉郡浪江方部の少壯組が十五、六名集合して双葉中堅青年同志會を創立し今回の總選擧には神長倉氏を推して政友會の公認を得たいと双葉部會に交渉したが部會では佐本氏を公認するの一問題しながらだ一方同志會代表は上京して氏に交渉をなした所が

「郷里の青年諸君の熱心な御要求に對しては深謝の外はない、然し自分としては松本孫右衛門氏の如き先輩もある事だから今回は出馬せぬ考へである……」

と語ったと言はれてゐるが同氏は今回は立候補を止め次回を期する事になったと

無茶なオートバイ

機關車に衝突

二十九日午後十時十五分頃磐越東線赤井、平を貨物第五十六列車が進行中、平町有發座の二方所に開かれ共に地内の古鍛冶町踏切に差掛り下の役員を選定し退散した

つた際、石城郡平窪村下平窪早川新吉(二〇)は真つ暗の道路を無謀にもヘッドライトの裝置ないオートバイを滅茶苦茶に飛ばし、進行中の該列車の機關車に衝突し四五間跳飛ばされオートバイは破損、早川は所々に打撲傷を負ひ列車は八分停車したが早川は右のオートバイを最近購入して物珍しさに夢中になって乘廻してゐたものであつた

給料の代りに船を取る

不況が産んだ珍事件

石城郡小名濱町山中春吉所有發動機漁船喜久壽丸乘組夫相馬郡原釜生れ佐藤太郎外十九名は舊歳末不漁續きのため船主が漁夫一名四十五圓づゝの給料九百圓を拂はぬので舊正月になつても歸郷出來ぬから給料の代り船を持つて歸ると廿九日驀ぎ出したが平署の仲裁で廿五圓づゝで折合がついた

支部の裁定効奏せば

比佐派主張強硬

問題を選擧後に讓る

石城民政黨部會

去る一月二十五日石城民政倶樂部の候補者像選を兼ねた總會が倶樂部階上で平町有發座の二方所に開かれ共に地内の古鍛冶町踏切に差掛り下の役員を選定し退散した

蕪派の無統制を暴露すると共に本元の内爭を持續

總會の正閏を頑守して一層醜くさをさらけ出してゐる右につき若松會長は語る

野崎派の主張はまるでウソでこちらでは問題にしやうともせぬ實は此の問題について支部も心配し石城民政黨將來の禍根を絶つために

一、比佐昌平君を公認にすること

一、石城部會の改選を支部に一任し支部は總選擧後輿論の歸する處を詳察して決定する事

一、右二項に應せざる場合は支部で斷乎たる裁定をなす事

の妥協案を提示し私共は直ちに贊成したが有發座で選定されたと云ふ銓衡委員は拒絶したので更に支部は

一、比佐昌平君を公認にする事

一、副會長の選任した役員を認ひること

の裁定案に固執したるに對し私共は部會の面目上應ずることが出來ぬと強硬に反對した結果最後に私共の主張を認めて無條件で比佐君の公認に決定したのである然るに其時に支部長以下の最高幹部は選擧の目的は必要後輿論の歸する處を詳察であるから選擧委員は自由に選任せよとあつたので歸來直ちに幹部會を開いて必勝を基礎とした同志の人を選任したがこの一念でも正閏など問題になるやうはない殊に有發座で選擧した役員は常任幹事廿名を初め部長の憲法に違反した處多くとのことだけでも効力のないことは明白である

平町内各吳服店から萬引して店を開業

被害八百點價格五千圓

犯人平署に逮捕

双葉郡濁田村大字乙次郎三七當時同郡木戸村大字山田濱居住青木善吉(三五)は去る昭和四年二月から木戸驛附近に吳服店を開店し一見眞面目な商人とみせかけてゐたが去る二十七日突然平町に萬引常習犯として取押青木店先に立寄り商品を見られたが同人の萬引方法は極めて巧妙なものであつて取引先に來たつては大變多忙の樣であるから手傳ふと主人始め店員に氣を許させて置き何時の間か縮緬の二三反を窃取する吳服店の如きは昨四年四五月以來被害點數五百十六點總價格三千五百二十四圓の多額に及んでゐたが當主人は伊勢參宮團体者應募のため木戸村に勸誘に行き前記青木店先に立寄り商品を見る迄は一抹の疑雲さえ青木に向かなかつたと云ふが同店の賣品の三分の二は平町各南店から萬引したもので其の主なる被害額價格點數は

一、一丁目伊關房次郎方

五一六點三千五百二十圓

一、白銀町川又正一方七七點七百三圓六十五錢

一、四丁目日鴻堂洋服店方七二圓

一、四丁目正札堂洋服店方二十二點三百三十五圓

二十錢

一、三丁目三井吳服店方三十五點百四十五圓八十錢

一、三丁目馬目久次方洋品店五點十三圓二十五錢

一、三丁目影山正助方二十四圓

一、二丁目山家直一方洋品店四圓五十錢で尚其の他各吳服屋洋品店洋服屋を專門に荒し廻つたもので被害總點數に八百十二點之が總額は四千九百二十六圓四十一錢の多額であるとの同人に質弟に店をまかし自分は萬引專門として働き廻つては平町田町大貞其の他の料理店で豪遊してゐた樣であるが尚平署では極力之が關係者を調査中である

平町の初賣出し

近郷から人出數萬

萬引や掏摸が横行

變裝警官全町に散る

平町の舊正二日の初賣出しは夜來の中から近郷からの人出で店先に雜沓しゐる始末で特に午前十時頃は一丁目から四丁目迄は黒山の人出で身動きも出來ない有樣であるがこれを期とし東京方面から多數の掏摸が來り込み純朴な田舎人と思ひばかりにちまち財布墓口を掏摸取ると云ふ始末で又悲歎にくれの有樣である午前十時か同十一時迄に平署に泣き込んだ人々は次の如くである

高久村下高久字中妻農鈴木ハナ(六〇)は三丁目角で現金十圓の墓口を掏摸取られた

赤井村赤井一四農猪狩吉太郎(四三)は常磐銀行支店前で拾圓紙幣二枚外約合計三十圓在中の財布を掏摸取られた

永戸村農中村幸作(四〇)は三丁目角で現金三十圓の大金をすり摸取られた

平窪村中平窪窪田ハツ(五三)は三丁目角で露店見物中五圓紙幣二枚在中の財布無斷拝借された

平稅務署の抵當權の設定抹消は共に減少

平稅務署の調査に依る昨年中管内の貸金抵當權設定及び抹消した件數を見ると何れも左の如き減少を示してゐる

	三年	四年	件數
平	八三五	八二六	三九
四倉	三五七	三四九	△八
植田	三七三	三七七	一〇五

平町の舊正二日の初賣出し來上がり内部の區別小使ひ室宿直室などが嫁工せば直に引移ることになるがなほ二月五日頃の豫定である

肉親の父と娘が列車内で大立廻

繼母をいやさに逃げた娘を連戻る途中

常磐線上野發仙臺行旅客列車が廿九日午後四時頃石城郡泉村泉驛に停車した際列車中央の三等車室に乘り合せてゐた一見親娘とも見ゆる二人連れの者が突然大立廻りを始め親らしい男は娘を捕へて打つ蹴るの暴行を加へるので乘客一同も餘りのことに呆然としてゐたが列車が平驛に着くや娘は驛に呉れ一實父に交渉したところ後妻に丸め込まれてゐる庄重は生意氣な奴だ一ばから車中で打擲を加へたもので一先づ歸宅せしめた

拐帶犯人逮捕さる

當時住所不定北海道生れ平鴨源吾(二〇)は去る二十七日平町三丁目飲食店御臺屋方に雇はれ中得意先の同町南町丸昇軒から集金をなしこれを主人に支拂はず御臺屋方の自轉車に乘つて逃走したが遂に郡山市において同署員に逮捕された旨二十九日平署へ通知して來た

四倉町の有親組合總會

四倉町字本町東通り有親組合では去る廿日午後三時より大谷丑宅に於て第二回組合總會を開催

協議事項

一、昭和五年度の事業

二、今後の組合の發展

に就いて協議し終つて役員選擧にうつり滿場一致にて組會長齊藤亮氏副組長に大河原米松氏同大谷義藤氏當選し午後五時盛大裡に散會した

靴窃盗

四倉署で捜査中

四倉町本町大谷義藤氏宅に廿九日午後五時頃家人のすきをねらひ窃盗侵入玄關内に有りし赤皮の網上靴一足を窃取し逃走した

自動車大破

列車と衝突し

平町二丁目三井自動車部雇運轉手草野秀雄(二七)が二十九日午後八時半頃石城郡好間村北好間高鹽市太郎(五一)の貨物車に乘せて好間村に向つて平さいつち小路無看守踏切りにさしかゝつたさい入替のためばく進して來た貨物車と側面衝突自動車は約三四間も引きずられて大破運轉手は頭部腰部その他に全治二ケ月乘客は頭部その他は一ケ月の重傷をおつた、平署から係官出張負傷者を附近病院に收容の上それぞれ手當を加へたが衝突の原因は全く運轉手の不注意からである

石城郡農會、産馬組合、養蠶同業組合、信用利用組合

事務所完成

開所は五日頃

石城郡各團体が共同で平町元郡衙北側に移轉し工費三千七百餘圓を投じ修築中のところ昨今全く出來上がり

石城郡各團体

事務所完成

開所は五日頃

石城郡農會、産馬組合、養蠶同業組合、信用利用組合の各團体事務所は元警察署を譲り受け平町元郡衙北側に移轉し工費三千七百餘圓を投じ修築中のところ昨今全く出來上がり

家畜保險講演會

石城郡地方で

石城郡産馬畜産組合では家畜保險法が施行されたので郡内全部に亘り今年度から加入せしむべく保險組合を設置する事に決定したが二月三日上遠野一田人、六日澤渡、永戸の各村に於て家畜保險宣傳の講演會を開催する事になつた因つ今年の保險加入家畜は約千頭に達する見込である

平町小火

舊元日に

平町白銀町旭湯事荒木忠光煙突から三十日午前十一時頃發火大事に至らんとしたのを附近の者が駆けつけやうやく消止めたが舊元日でもあり殊に烈風中でもあつたので一時は非常な大騒ぎであつた原因は煙突手入れの不始末から

節分は來る三日

縣社で豆撒

石城郡内各會の吉例による豆撒きは來月三日平町縣社子鍬倉神社にて執行する當日は例によつて追儺式行執

ビヤ醸造
特約店 廣瀬支店
平町田町 電話五四番

貸地廣告
平町郡役所より稅務署附近の新開地に五百餘坪の貸地があります、然かも完全な土盛でありますから流失其の他の憂ひ絶對になく商店、諸工場並に高級の住宅地として最もの適地を極く安値にお貸しいたします
御希望の方は電話なり葉書なり御申し越し下されば社員が伺ひして親しく御相談に應じます
小名濱商事株式會社
平出張所
電話 六〇三番 五四一番

特賣!!
たひら正宗 福島縣清酒品評會一等賞受領
花春 同優等賞受領
醤油醸造元
鹽屋 山崎合名會社
電話一〇番

内科、小兒科
花柳病科 入院應需
藤沼醫院
平町 電話五〇七番

内科、小兒科
外科一般、婦人科
皮膚、梅毒、淋疾病
市原卯太郎
市原陸郎
市原三三男
平町田町本通
市原醫院
(入院隨時)
電話一一四番

青年によつて文化は盛衰する

教育に最も大切な——

時期は幼少のとき

人生を三期に分ちて生れてから廿歳迄を未成年期廿一歳から五十歳迄を成年期五十一歳から死に至る迄を老年期、と一般にされてゐるが其三期の内人物を育成する上に於て最も重大視すべき時期は第一期の未成年期である即ち幾何級數的に成長してゐるしかしもつと根本に遡れば胎兒の養育といふことも大切である、遺傳學上から見て一種の優良なるべきは勿論環境即ち母体の健康にして身の持方に注意すべきである或學者の説によれば受精した卵を〇〇〇〇歳から五十歳迄を成年期五六グラムとし、生れた時の赤ん坊を重量で三千二百五十グラムとすれば生れた時の赤ん坊はそ最も初めの五百四十萬倍の重量になつて居る即ち幾何級數的に成長してゐる、また生後の發育狀態を見るに

二ケ月目——時間空間の觀念が生ずる

三ケ月目——反動に對する運動を起す

四ケ月目——意味ある運動物體の兩面を會得る

五ケ月目——物體に手を觸れて種々の試みをなし故に教育上から考へれば人間は幼兒の時に於て最もよく教育を加へれば勞少くして効果は著しいものである

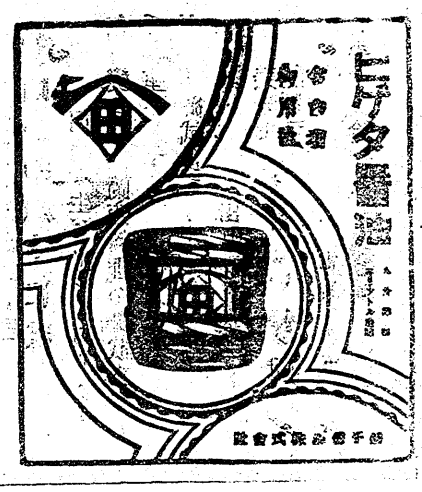
六ケ月目——因果關係を解す

七ケ月目——種々の觀察を始める

八ケ月目——觀察實驗を盛んに行ふ

一ケ年目——赤ん坊の頭は白紙でなく色々の獨創的體驗をなしてゐる

一ケ年以上——獨創的体驗が漸次少くなつて行く期位迄に自發創生せねばならぬのであつてそれ迄に頭角を現し得ざる者は大体の自然の如く生れつきでも一年目位の年長期にたいしては非常なる急速力を以て發育し己の見極めも付けてよいのである、青年は健全なる木皮でなければならぬし老人はその木の發育者である老人はその木の木の支持者である故にその國の青年が如何に考へてゐるかを見てその國の文化も推しはかられる譯である、學問技藝は自發創生的のものでなくて後から外部より付け加へたるものであるが故に學問技藝等は自己から通れやう通れやうとしてゐる、そしてデリケートなもの程そうであるか自己の身に付けたものは

これを通さないやうに温め

体事務所は元警察署を譲り受け平町元郡衙北側に移轉し工費三千七百餘圓を投じ修築中のところ昨今全く出